岡豊風土

〈高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ〉　第57号　2006年7月1日

岡豊山への想い

館長　宅間　一之

岡豊山、その城跡に最初に登ったのは昭和三十年五月であった。雑草木の中のおおきな「長宗我部氏岡豊城址」の標柱を見上げて流した汗は忘れられない。草木生い繁る荒城であった。

岡豊山ハイランドの陳列ケースから城跡の遺物を譲り受けた日も、まだ見ぬ建設予定の歴史民俗資料館に展示しようと、胸躍らせて切り取った田村遺跡の水田と弥生人の足跡が、結局行き先がなく発掘事務所脇に埋め戻された日も、破壊される西斜面の畝状竪堀を記録保存のために涙をのんで測量したあの日のことも、岡豊山は私にとってはいろいろの想いが交錯する特別な場であり、中世山城に魅せられ城探索の契機ともなった城跡である。

城跡は発掘調査によって中世の城跡を凌駕する多くの遺構を確認し復元している。現存遺構も虎口に井戸、堀切、竪堀、空堀など元親居城の頃をそのままに残し、城跡を歩く人たちを緊迫した戦国の世に引き込む。中世の「土の城」から織豊系の「石の城」へと城が変化する過程を教え、戦国の城の追体験ができ城歩きの醍醐味を満喫させる。歴史民俗資料館展示の出土遺物も、土師質土器に輸入陶磁、天正三年銘の瓦や弾丸など城の歴史を雄弁に語って城の遺構を歴史的に確かなものとする。

岡豊山には美しい自然とすばらしい歴史の眺望がある。春は桜花の嵐、やがて目にしむ新緑から夏の木陰、吹き抜ける涼風は自然の匂いを添えて過ぎていく。秋は紅葉から落葉の絨毯へと移っていく。四季折々の可憐な花も人の心を和ませる。

城跡の北、参勤交代の道は重なる北山を越える。高速道路脇の奥谷南遺跡は土佐の夜明けを告げ、長畝の前期古墳、巨石の小蓮古墳から舟岩の群集墳へとつながって考古の世界に誘う。

東眼下の流れは国分川、土佐のまほろばを抱き込むようにいまも雅の風情を漂わせて流れる。長岡台地から土佐山田へは後期弥生の集落群がひろがりその先は龍河洞である。

南斜面には伝家老屋敷跡があり、近年の発掘は国分川のほとりに城の大手門も推定させた。長宗我部の家臣吉田土居もすぐそこ。南四国最大の弥生拠点集落田村遺跡群の先には太平洋の波頭もかすんで見える。

西は伝厩跡曲輪、貫之船出の大津からは新興の住宅が近世高知の城下へとつながっていく。目線で切られた樹木の先に開ける歴史の風景、これに高知県立歴史民俗資料館を加えた歴史の眺望はこの地以外ではのぞめない。岡豊山は野外資料館としても不足はない。

高知県立歴史民俗資料館も、土佐の歴史や文化解明の資料収集と調査研究、その成果を公開展示して十五年の歳月が流れた。幸いにも県内の方々からはふるさと文化の拠点としてひろく活用され、また県外の方々には土佐の歴史ロマンが堪能できる施設との評価も得てきた。しかしその集客力は満足のいくものではない。とにかく「来て、見て、そして話を聞いてもらう」新しい方向性の確立が急がれる。

本年度から県民のニーズに適切に対応できるよう、民間のノウハウも生かそうと指定管理者制度も導入された。本館も高知県の歴史文化を「守り」未来に伝える資料館、歴史文化を「学ぶ」

入り口となる資料館、人々が「集い」出会いと交流の場となる資料館、歴史文化を通じて子どもたちを「育む」資料館を目指し、今までの施策を継続しながら新しい取り組みを開始した。資料館が「もっと身近に、もっと楽しい」ものと信頼と支援を受けるためには、携る者の幅広い資質と行動力に加え、新しい発想が求められる。各地の史談会や文化財研究組織、高齢者学級や婦人学級、それに地域学習や活性化推進活動のグループ等、近年市民の生涯学習意欲もニーズも多様化し高度化し、歴史民俗資料館の地域のシンクタンクとしての使命もより大きくなった。地域社会での新たな存在価値と期待も背負える活動面での知恵や工夫も、館充実の大きなポイントとなってきた。

岡豊山には説得力ある歴史の証言と感動を呼ぶ自然と歴史の眺望がある。歴史民俗資料館という人工環境としての展示の場もある。そこは殺伐とした戦国の城跡であっても、自然界の演出が戦いの歴史は忘れさせ、人の心を癒し歴史のロマン、歴史のアートにひたらせる。岡豊山に足を踏み入れ、山や館で楽しく、ためになる時を過ごし、想像力をかきたて好奇心を刺激していただきたい。

開館15周年関連企画展
土佐の歴史玉手箱
―歴民15年の歩み―
平成十八年七月二十二日(土)～九月二十四日(日)

高知県立歴史民俗資料館が南国市の長宗我部氏の居城跡岡豊城跡に誕生したのは、平成三年の五月三日です。時間の経つのは早いものであっというまに今年で十五年を迎えました。開館日の五月三日は、「歴民の日」として定着しつつあります。

開館した年から、調査・研究・資料収集・保存事業の成果の一つとして特別展や企画展などを開催してまいりました。また、調査・研究の成果として平成三年度から『研究紀要』を発刊、平成十四年度からは『収蔵資料目録』の刊行も継続的に行っています。

また、資料の収集とともに寄贈・寄託資料を含めた収蔵資料の整理・分類、さらに表装や保存処理も継続的に行っています。将来発生するとされる南海地震に対応するために、収蔵庫の耐震も少しずつ進めています。

そこで、開館十五周年関連企画展として歴史民俗資料館が開館時より県内外の方から寄贈・寄託いただいた資料の中から貴重な文化財を一部展示し、紹介することとしました。また、収集した資料も併せて展示いたします。

十五年間の調査・研究の成果と貴重な資料の収集・保存を通して歴民（博物館）の仕事を振り返り、将来の文化財保存のあり方も考えてみたいと思います。展示会場は、三階総合展示室と一階企画展示室を予定しています。

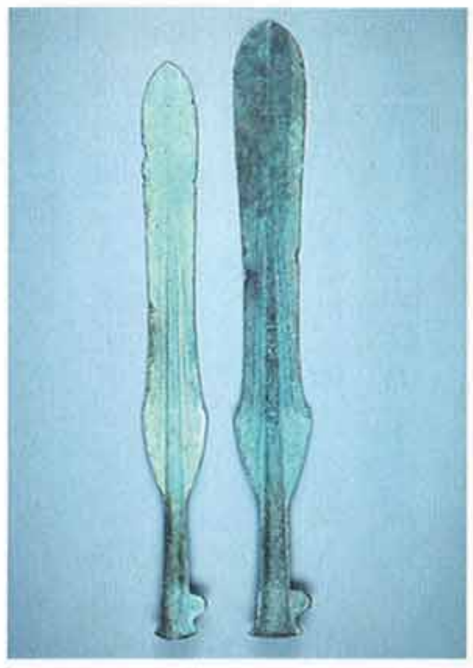
関連事業として七月二十九日（土）の十四～十六時には、多数の著書があり、考古・民俗にも造詣の深い信州大学教授の笹本正治先生をお招きして「戦乱の中の民衆」と題してご講演をいただきます。また、八月五日（土）の十四～十六時には、徳島県立博物館の主任学芸員の魚島純一先生をお招きして「博物館のお医者さん」と題して、文化財の修理や修復保存についてご講演いただきますので、ご期待ください。（なお、講演聴講ご希望の方は、定員一〇〇名となっておりますので、葉書かeメールで当館学芸課宛でお申し込みください。）

展示資料から一部紹介します。まずは考古分野から縄文時代を紹介しましょう。

土佐の縄文時代初めの遺跡を代表するものとして佐川町不動ケ岩屋洞穴遺跡の縄文時代草創期～早期の土器や石器、同町城台洞穴遺跡の獣骨類、そして近年注目された土佐市居徳遺跡群の耳飾りや殺傷痕のある人骨などを展示します。一九五二年に発掘された四万十市（旧中村市）入田遺跡の石器類も予定しています。

佐川町城台洞穴遺跡出土人骨・獣骨

弥生時代の青銅器では、収蔵している青銅器を全て公開する予定です。一九七九年から一九八三年まで行われた高知空港ジェット化に伴う空港拡張整備事業に伴う南国市田村遺跡群の発掘調査で出土した石器類や土器類も展示を予定しています。


銅矛　土佐市波介万福寺

古墳時代では、一九六七年に調査された南国市の舟岩古墳群出土の須恵器や保存処理した古墳出土の鉄器類や馬具類等があります。県下三大古墳の小蓮古墳の出土遺物も展示の予定です。また、香美市土佐山田町の伏原大塚古墳の出土の県下唯一の埴輪も展示します。

香美市土佐山田町西ノ内二号墳出土
鉄鏃（保存処理後）

古代では、南国市比江廃寺の瓦や鴟尾片も展示します。併せて南国市国分寺関係では、南国市指定文化財に指定された海獣葡萄鏡片と伴出した鎌倉時代末～室町時代前半の常滑焼甕も展示します。

中世では、信仰の対象物である県指定文化財のいの町三社神社の貞和五年（一三四九）木板彩画懸仏を期間を限り展示します。また、県指定文化財のいの町三上八幡宮蔵の室町時代前期の懸仏の弥陀三尊と銅製狛犬、県下最古の寛正六年（一四六五）銘同八幡宮所蔵の鉄釣燈籠を展示します。

木版彩画懸仏

土佐神社所蔵資料からは、鯰尾矛や中世末に土佐神社に懸けられていた県下最大級の天文二十一年（一五五二）銘の鰐口、七夕の水晶も展示します。

文献を中心とする文字史料と、支配者層の遺した美術工芸資料は、主に歴史分野が担当しています。

古代・中世の古文書は、この十五年間ほとんど収蔵されませんでした。僅かに戦国期の武将文書が収蔵されていますので、今回は吉田孝頼感状と本山茂辰感状を展示します。

長宗我部氏関連は全国で唯一のコレクションが形成されつつあります。これらは秋の企画展「長宗我部盛親」で一括公開する予定ですが、元親書状など、その一部を先行展示します。

近世では、元阿波国日和佐城主で、後に土佐に来国した濱家（浦庄屋）資料と、近世土佐の浦々（海浜集落）の様子を描いた「浦々図」を展示します。

天保小判

いずれも県外にあった資料を購入という手段で里帰りさせたものです。

歴史分野の根幹をなす大コレクションの一つに堀見家資料があります。今回は、工芸資料の中から上野守久國（県指定）など選りすぐりの刀剣を公開する予定です。

幕末期では、武市半平太の史料を含む島村衛吉関係史料（南国市寄託）、錦絵「七卿西走之図」（土方家寄贈）、幕末の土佐藩士一家を描いた「馬場家肖像画」（馬場家寄贈）など、未公開資料を中心に選考中です。

近代では、明治初頭に土佐に来た西郷隆盛関連の貴重資料を竹村家寄託資料から展示する他、板垣退助の貴重な遺品である大礼服（小山家資料）なども一堂に公開する予定です。

また貨幣関係の資料も展示します。

民俗分野では、この十五年間特に力を入れて収集・調査した分野として、川漁、船、民間信仰に関わる資料を中心に紹介します。

川漁では、県内の各河川で漁の方法を調査し、特に四万十川に関しては、平成九年に「四万十川―漁の民俗誌―」と題した企画展を開催しました。今回はその時の展示資料を中心に、物部川など他の河川の漁具も紹介します。

祭礼に関する資料として、室戸市佐喜浜の俄の段尻に使われていた幕を展示します。海女が龍神から珠を取り戻す香川県の志渡寺の縁起を描いたものです。

俄段尻幕　室戸市佐喜浜八幡宮古式行事保存会

博物館のお医者さん

徳島県立博物館　主任学芸員　魚島　純一

私は、徳島県立博物館で保存科学という分野を担当している。はて？どんなことをやっているのだろうとお思いの読者も多いだろう。一言でいうと、ずばり「博物館のお医者さん」である。私自身、このことばが結構気に入っている。

博物館に保管された多くの資料を患者に例えて、病気にならないように展示や保管の環境を整えたり、病気になってしまった資料には応急処置をはじめ、手術のような修理や修復を行ったりするのが博物館のお医者さんの役割である。また、時にはよその博物館の資料についても診察や治療のアドバイスを行ったりもする。もちろん、手に負えない重症患者の場合は、もっと適切な処置ができる大病院を紹介したりもする。

よけいにわからなくなってしまったという方のために、私のしごとのいくつかを簡単に紹介することにしよう。

博物館資料の多くは、その本来の役目を果たし終え、次世代に引き継ぎ保存するべきものと判断され、新たな役割を与えられたいわば「高齢者」がほとんどである。人間でも、私のように四〇歳を過ぎると、体のあちこちにガタが出はじめ、何もかもが若い頃のようにはいかなくなってくる。博物館に保管されている多くの資料も、まさにそんな状態にあると考えていただければまず間違いはない。となると、相当いたわってやらなければならないことは察しがつくだろう。ましてや、この先一〇年、二〇年、いや一〇〇年の単位で保存し続けなければならないことを考えるとなおさらである。

そこで、博物館では、資料を展示したり保管したりする空間の環境を、できるだけ保存に適した環境に整えるように努力している。具体的には、空調等を利用して温度・湿度を保ったり、照明から紫外線等の悪影響を与えるものを排除したり、害虫やカビの被害から守るための処置をしたり……。一般家庭では到底考えられないような、「エー、そこまでやる？」というようなことまでしている。

また、博物館の資料には、博物館に持ち込まれる際にすでに破損していたり、運悪く展示や保管中に破損してしまうものも少なくはない。それらの資料に応急処置を施したり、大手術となるような修理を行うこともある。ただし、修理はある意味では資料の破壊でもあるため、後々もっとよい修理方法ができた際には元に戻せるようにしておくことが博物館資料等文化財の修理の大原則である。

ここで、一つの実例を紹介しよう。

ある日、私のところに一本の電話が入った。電話の主は高知県内にある博物館の学芸員であった。ある旧家が火災にあって、古くから伝わる文書の一部が火災で焼けてしまったり、運良く焼け残ったものの中にも消火活動の際に水をかぶってしまったものがある。このまま放置すると文書の資料価値が失われてしまうので何とかならないかという内容のものだった。徳島県立博物館には凍結真空乾燥機と呼ばれる特殊な装置がある。この装置は、通常そのまま乾かすと固着してめくることができなくなってしまう水に濡れた紙等を、固着させないように処理できる。一九九五年の阪神・淡路大震災で旧家の蔵の屋根が崩落し、保管されていた文書が雨漏りで被災した際にも同様の処理を行い、うまくいった実績があった。電話の主はそのことを知っていたようだ。すぐに、濡れたままの状態でマイナス二五度以下で凍らせること、凍らせた状態のままで徳島まで輸送することが可能かどうか尋ね、実行するように依頼した。数日後、冷凍庫を積んだトラックが徳島県立博物館に到着した。運ばれてきたのは凍った文書たちである。処理は成功し、あわや固着してしまうところだった文書たちは元通りめくることができるようになった。高知に戻った処理ずみの文書たちは、地元の博物館でお披露目されたとのことである。

この話は、私のこれまでの経験の中で、博物館のお医者さんの役割がきわめて有効に働いた例である。近くに手術が可能な病院があったこと、担当医が緊急状態にある患者の容態を手術経験のある医者に伝えることができたこと。手術担当医が指示した応急処置を的確に実行できたこと。そして手術がうまくいったこと。そして、何より患者がまた社会復帰できたこと。いろんな幸運があって、結果的に資料を守ることができた。

これからも、資料の健康管理を続け、できるだけ多くの資料を次世代に引き継いでいくことを少しでも手伝えるような仕事がしていきたいと感じている。

凍結真空乾燥機で処理中の水濡れ文書

速報

久しぶりの長宗我部展開催迫る！

「長宗我部盛親」

―土佐武士の名誉と意地―

大河ドラマの影響でしょうか、山内氏に関する問い合わせが多い今日この頃。歴民館では、この秋一豊入国前後の土佐を長宗我部氏側から描く企画展を開催します。

これまでの展示会、「四国の戦国群像」「長宗我部元親・盛親の栄光と挫折」では、メインは元親でした。

今回の主役は盛親です。偉大な祖父（国親）・父（元親）・長兄（信親）らと比較され、何かと評判の芳しくない彼ですが、実際はどんな武将だったのでしょう。

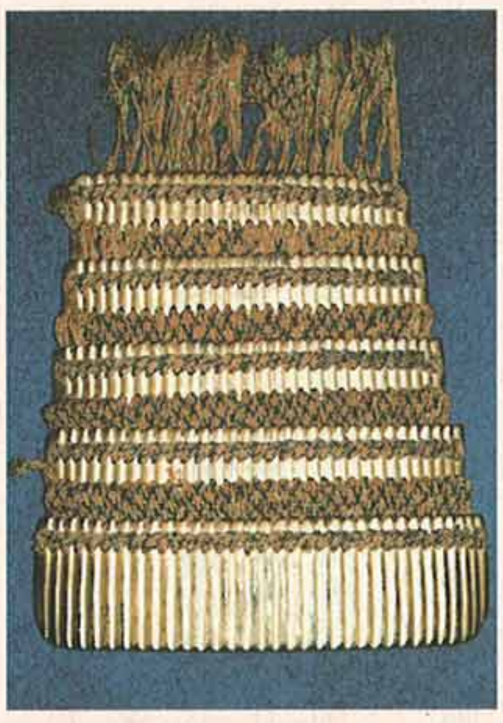
関ヶ原、大坂の陣と二度にわたって家康に弓を引いた盛親の遺品は、これまでほとんど遺っていないと考えられてきました。しかし、地道な調査の結果、長宗我部氏に縁のある寺社や個人宅などに若干保存されていることが分かってきました。

盛親の菩提寺京都蓮光寺に現存する資料もそのなかの一つです。

父元親の死後、正式に家督を相続した盛親は、関ヶ原の合戦で西軍につき、土佐一国を失います。上京して蟄居の身となった彼は、寺子屋の師匠などをして生計を立てたと伝えられます。

この京洛の地で、大岩祐夢と号した彼と交流を持ったのが、順譽蓮光上人でした。後の大坂の陣において、敗れた盛親が六条河原で斬首された時、首をもらい受けたのはその縁によるようです。蓮光寺には、盛親の遺品として、刀・草摺（甲冑の一部）・鐙（片双）などが現存しています。いずれも一部の郷土史家の間では知られた資料ですが、一般的にはほとんど未知の資料です。今回初めて学術的な調査がなされ、大凡の年代と名称が確定しました。（詳細は次号でお伝えします）

初公開資料から、貴方は何を感じることができるでしょう。



金箔押色糸威草摺（伝盛親所用甲冑の一部）紅・藍・萌黄の威糸部分に引きちぎられた痕跡をとどめます。蓮光上人が首級と共にもらい受けたものかもしれません。

土佐の民具20

カルイモッコ

前館長　坂本　正夫

カルイモッコ（カルイモッコウ）は、坂道や傾斜地の多い山村で使用されていた民具ですが、特に県西北部の愛媛県境に位置する高岡郡檮原町や四万十町大正・十和地区、津野町東津野地区などで多く使用されていました。

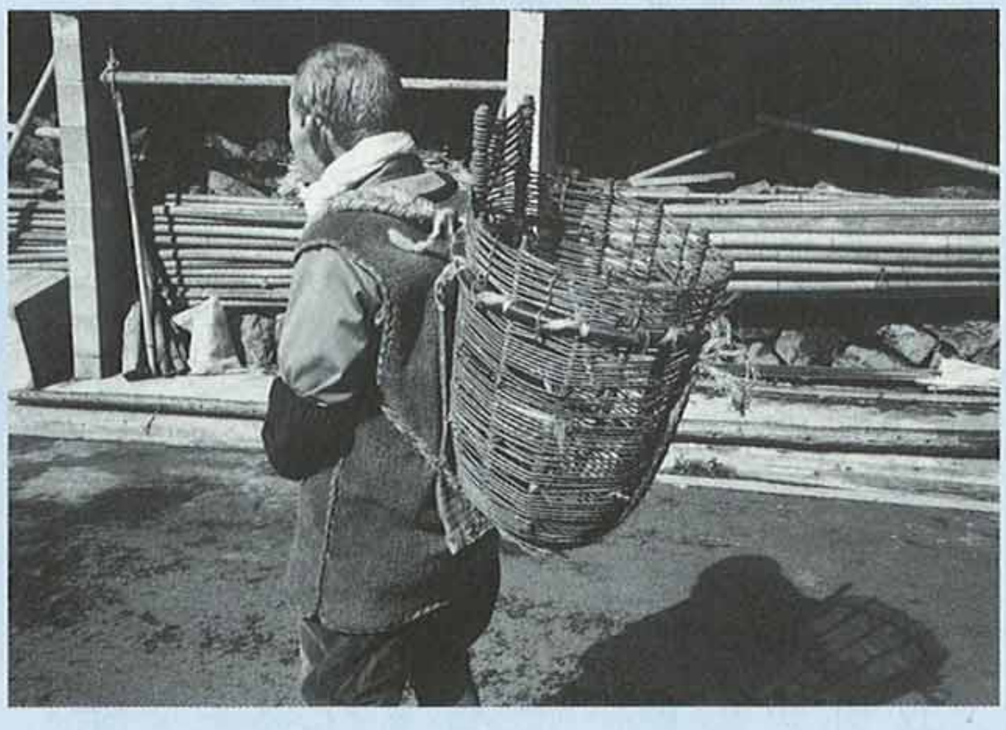
カルイモッコには堆肥類やサツマイモ、サトイモ、ジャガイモ、トウモロコシ、ダイコン、コンニャクなどを入れて運んでいましたが、ほとんど自家製でした。高岡郡津野町の口目ケ市や大古味、檮原町初瀬では、これをトリノス（鳥の巣）と呼ぶお年寄りに会いましたが、形が山野の鳥の巣に似ていることからの命名だろうと思います。

製作法は小径の適当な木を曲げたものにワラ縄、シュロ縄、シズラ縄（ワラビの根を加工して作った縄）、ツヅラ・フジ・クズなど野生のカズラなどを編みつけ、これに負い縄をつけるとできあがります。

写真のカルイモッコは、昭和五九（一九八四）年に檮原町横貝で見かけたものですが、これはツヅラと呼ぶカズラで作られていました。

山村の背負い運搬具には、このほかカゴ（籠）やフゴ（畚）、袋に負い縄をつけたカルイカゴ、オイカゴ、カルイフゴ、カルイホゴ、カルイブクロなどがありました。また薪炭、生草、川石、肥料などを運ぶオイコ、カルイコ、カルコなどと呼ぶ運搬具もありました。

『土佐の民具』～おわり



高岡郡檮原町横貝で見かけたカルイモッコ（一九八四年）

考古

仏跡巡礼
―釈尊生誕の地ルンビニー③―

ルンビニー（Lumbini）には、釈尊の母マーヤーに因んで建てられた白いマヤ堂があり、また手前には約一五m、幅八mの長方形の池が水を湛え、釈尊が誕生の時に沐浴した池と伝えられています。近年、マヤ堂遺跡の発掘調査が日本の手によりなされました。その期間は、試掘調査が一九九二年の十二月～九三年三月まで、本調査が九四年四月～九五年六月まで、整理検討調査が九五年七月～二〇〇三年三月まで長期にわたり行われました。その報告書は、（財）全日本仏教会から『ルンビニー―マヤ堂の考古学的調査一九九二～一九九五―』（二〇〇五年三月）として幾多の困難を乗り越え刊行されました。この調査でマヤ堂の中心地点の直下から七〇×四〇cm、厚さ一〇cmのレンガの上に置かれた自然石が発見されました。この石の置かれた年代は、レンガのサイズと北方黒色磨研土器が伴出したことから、アショカ王（紀元前二六八～二三二年）のころに置かれた石と考えられました。しかし、石質はアショカ王の石柱とは異なる北のヒマラヤ南麓シワリク産の含細礫砂岩でした。まさにこの石は釈尊生誕地を示す「印石」で、アショカ王石柱が建立された時期と隔たらないころに置かれたと推定されます。

一九九七年、ルンビニーはユネスコの世界遺産に登録されました。（岡本）

マヤ堂遠景

歴史

板垣退助と大礼服（たいれいふく、だいれいふく）

「板垣退助」は幕末の土佐（高知）藩士であり、明治期の官僚、民権運動指導者、そして政党政治家です。幕末期に倒幕派に投じて戊辰（ぼしん）戦争で活躍し、明治維新後参議となり、征韓論に敗れて下野（げや）、明治七年（一八七四）愛国公党をおこし、民選議院設立建白書を政府に提出。故郷高知において、立志社を設立した、自由民権運動の象徴的指導者です。明治十四年（一八八一）自由党の総理就任、華族制度に批判的でしたが、明治二十年（一八八七）固辞しきれず伯爵を受爵し、後に第二次伊藤内閣、第一次大隈内閣の内相を務めており、その時に大礼服を着用しました。

大礼服は、当時の貴族・文官・武官等が着用する最高の礼装であり明治五年（一八七二）発布の「大礼服令」により、政府の高官などに正装として着用（ちゃくよう）が義務付けられた衣服です。階級や役職ごとに刺繍（ししゅう）の花の数や大きさデザインに細かい規定が設けられていました。当館には板垣退助使用の大礼服上下、チョッキ、大礼帽、帯剣吊り、サーベル及び白色チョッキ、ズボンがあり、開館十五周年関連企画展、「土佐の歴史玉手箱」において展示が予定されていますのでご期待ください。（寺川）

大礼服

民俗

ブログ「和船船大工弟子入り日記」

企画展のアイデアを学芸課で出しあっていたときのこと、「動物園や植物園の絶滅危惧種展のように、絶滅が危惧される民俗行事や民俗技術を取り上げては？」との提案がありました。冗談キツイよ…と苦笑い。いや待てよ、失われつつある民俗行事や民俗技術があるのは事実。その現状を知らせることは大切では…と、思い直しました。でも、その先は？

芝藤（しばふじ）敏彦さんのブログ「和船船大工弟子入り日記」には、「日本の伝統的な木造和船は船大工さんが高齢化し後継者がいないので消滅寸前です。木造和船を絶滅から救う運動を始めます」とあります。結局は運動を始めることなのでしょう。そして、博物館が出来るのは、情報を蓄積して芝藤さんたちチャレンジャーに提供することなのでしょう。

「五月十四日、大雨。弘光さん（船大工）に電話すると『雨やき、しんどいのう』との返事。お年寄りだから無理はだめ。私としては仕上げの作業をしたいのだが、お休みとなる。暇になったので高知県立歴史民俗資料館で土佐の和船の調査をしていた田辺さんの写真展を見に行く時間が出来たと喜ぶ」等、当館も登場。今後の展開が楽しみなブログです。（中村）

歴民開館１５周年　5月3日（開館記念日）

歴民の日

入館者数　５３７名

恒例!!
れきみんクイズの陣

歴民の日恒例となった
クイズの陣。
全問正解者の参加賞
ゲットできたかな？

今年も登場♪

くろしお君

今年も来ましたくろしお君。
やっぱり大人気でした。
かわいい仕草に大人も子供も虜（とりこ）になりました。

岡豊山桜
フォトコンテスト
～表彰式～

今年初めて開催された「岡豊山のフォトコンテスト」
32点のご応募をいただきました。ありがとうございました。

素晴らしい作品の数々に、審査員は頭を悩ませたそうです。見事入賞された8名の方の表彰式が２階エントランスホールにて行われました。

最優秀賞・優秀賞・歴民賞は館内にて年間展示させていただきます。

大月町
柏島づくし…

高知の郷土料理の普及と歴史・文化に触れる場の提供を目指して、今年5月より「高知の食を味わう～食のこころ～」が開催されています。

これは県内各地の郷土料理とその地方の文化講座をセットにした歴史民俗資料館初の試みです。

第1回目は大月町柏島の郷土料理と、前館長坂本正夫氏による幡多地方の食文化についての講座でした。参加者は、柏島の食材をふんだんにとりいれた料理を磯の香りとともに楽しみました。

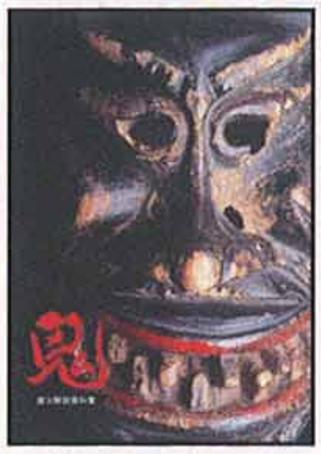
また、中庭では大月町の地場産品実演販売も行われ大好評でした。

岡豊山のさんぽ道

涼風通るなつかしい佇まいの民家

新刊のご案内

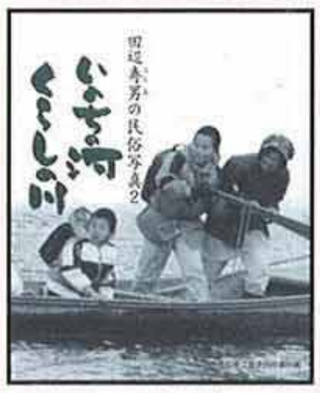
「鬼ー展示解説資料集」



鬼とは何か？
日本文化に潜む鬼について概説、高知県内を中心に鬼面約200点の写真、鬼の出る行事の調査記録と資料を収録。約１千点の写真で鬼の世界に迫る。

224頁
頒価1760円(送料３４０円)

「いのちの河・くらしの川」
ー田辺寿男の民俗写真２ー



田辺寿男さんの写真集、第二弾です。田辺さんは、高知県のさまざまな川で若水汲みや七夕、盆行事、川漁など人々の暮らしの一コマーコマを丹念に撮影しています。
139枚の白黒写真は、「人間と川とのつながり」のこれからを私達に考えさせます。
頒価1500円(送料３４０円)

館受付で販売中。郵送希望者は送料とあわせて現金書留か郵便振込でお申し込みください。

○口座番号　01610－2－61369
○加入者名　(財) 高知県文化財団

臨時休館のお知らせ

下記の期間夏の企画展の資料搬入・展示・撤去のため臨時休館と致します。
平成18年7月19日(水)～7月21日(金)
平成18年9月25日(月)～9月26日(火)

岡豊風日（おこうふうじつ）第57号
平成一八年七月一日
編集・発行　高知県立歴史民俗資料館
〒783－0044　南国市岡豊町八幡１０９９－１
TEL　０８８(８６２)２２１１
FAX　０８８(８６２)２１１０
開館時間　午前９時～午後５時
（入館は午後４時30分まで）
休館日　年末年始(12月27日～1月1日)、臨時休館日あり
入館料　通常期[常設展]大人(18歳以上) 450円・団体(20人以上) 360円
無料：高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳所持者、療育手帳・身体障害者手帳・障害者手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)
印刷・㈱飛鳥

http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~rekimin/
Eメール：rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp

平成18年7月～平成18年9月の催し物

企画展

鉄釣燈籠（県指定）

開館15周年関連企画展

土佐の歴史玉手箱
ー歴民15年の歩みー

7月22日(土)～9月24日(日)

歴史民俗資料館が開館時より受贈・受託および収集した資料の中から貴重な文化財を展示致します。
15年間の調査・研究の成果と貴重な収集資料を通してれきみんの仕事を振り返り、将来の文化財保存のあり方も考えます。

企画展講演会

7月29日(土) 14:00～16:00
「戦乱の中の民衆」
講師　笹本　正治氏（信州大学教授）

8月　5日(土) 14:00～16:00
「博物館のお医者さん
ーお宝の保存方法にもお答えしますー」
講師　魚島　純一氏（徳島県立博物館主任学芸員）

要予約　葉書かEメールで住所、氏名、電話番号をご記入のうえお申し込みください。入館券が必要です。(先着各100名)

展示室トーク

8月12日(土) 14:00～15:00
9月　2日(土) 14:00～15:00
担当学芸員による展示解説です。
●予約不要ですが、入館券が必要です。

れきみん講座

9月9日(土) 14:00～15:30
「旅と文化」
講師　坂本　正夫氏（当館前館長）

9月23日(祝・土) 14:00～15:30
「仏教文化講座①
ーインドの仏跡をたずねてー」
講師　岡本　桂典（当館学芸課長）

●予約不要ですが、入館券が必要です。

ワクワクワーク

7月30日(日)10:00～12:00　七夕飾り
8月26日(土)10:00～12:00　水鉄砲をつくろう
9月24日(日)10:00～12:00　障子貼り

●電話かEメールでお申し込みください。定員先着30名

ひとこと

坂本正夫氏は平成18年3月末をもって館長を退任しました。また、4月の異動で大森秀男学芸専門員が教育現場へ戻りました。皆様には大変お世話になりありがとうございました。

坂本正夫前館長にかわって4月より宅間一之新館長が着任しました。どうぞよろしくお願いします。

＊＊＊ 新学芸員紹介 ＊＊＊

この度の人事異動で歴史民俗資料館に転任してまいりました。寺川嗣(つぐ)です。
学芸員としてこの１ヶ月見る物、聞くこと、触れること、初めての体験ばかりで日々とまどいながら、かつ好奇心を持って今日は、どんな発見、出会いがあるだろうと過ごしています。諸先輩方の指導の元頑張っていきたいと思います。
今後ともよろしくお願いいたします。